彩 IRODORI

Vol.68

OSRI
大阪彩都総研

2016
10
October

CONTENTS

1 ● 大阪彩都総合研究所からのご案内
3 ● 企業シリーズ「挑戦」
株式会社スミレ工作所
5 ● 府内最低賃金１０月から８８３円に
7 ● 「経営力向上計画」策定・活用を
8 ● 北摂伝説⑥ミスタードーナツ１号店
9 ● 北大阪近郊ぶらり文学・歴史散歩⑳
10 ● アドバイザーレポート
11 ● インサイド関西経済～デスク日記
12 ● 経済トピックス
13 ● ぶらり本屋さんへ
14 ● アドバイザー紹介

株式会社大阪彩都総合研究所

株式会社スミレ工作所

匠の技術力で医療現場の負担軽減
高付加価値の医療関連機器メーカー

「付加価値の高い製品づくりを続ける」と松本社長

医療機器メーカーのスミレ工作所（本社寝屋川市）は、府の「大阪ものづくり優良企業賞」や、近畿経済産業局の「関西ものづくり新撰２０１５」に製品が選ばれるなど技術力とアイデアには定評がある。社長の松本照造（７９）は「付加価値の高い製品の開発で、医師や看護師など医療現場の負担軽減に貢献できれば」と抱負を語る。設立３０年を迎える２０１７年には、常務の萩原高明（４１）にバトンタッチすることを決めているが、一線を退いた後も開発現場にはとどまるつもりだ。

（文中敬称略）

社名の横に「匠」マーク

淀川に架かる鳥飼仁和寺大橋近くの本社を訪ねた。昨年暮れに建て替えたばかりという社屋と工場は清潔感があふれ、社名の横に、２０１２年の大阪ものづくり優良企業に選ばれたことを示す「匠」マークと、品質管理の国際基準である「ISO9001」「ISO14001」の認証を受けたことを示す看板が設置されていた＝**写真**。

「量産ができない中小企業にとっては技術力が唯一の誇り。こうした賞に選ばれることは大きな励みになります。近く発売する画期的な装置で今年も目指します」と、松本は意欲をみせる。

医療現場の負担軽減する画期的処理装置

その新商品は、病院の手術の際に出る血液や生理的食塩水、洗浄用薬液などの廃液を、簡単に処理できる装置「OPSUCTION」（オペサクション）。手術の内容にもよるが、医療現場でこうした廃液は１回の手術で最大１０リットル程度発生し、約２リットルのガラス容器に小分けしたうえで別室の汚物処理室に運搬して消毒・投棄処理している。容器の洗浄もしなければならず、看護師の負担は相当大きいという。

１０月にも商品化される「OPSUCTION」

新装置は、手術室に通常設置されている医療用酸素や圧縮空気の供給ライン、真空ラインを活用。手術で出る大量の洗浄液や血液などを、吸引ホースを通じて内部の汚物タンクに回収したうえで除菌処理し、手術後に排出、タンク内も自動的に消毒・洗浄される仕組みだ。タンクの容量は１５リットルと通常の手術で出る廃液の量を十分カバーしており、看護師は本来の医療補助業務に専念できるうえ、二次感染の防止にもつながる。

同社では２０１４年度補正の国のものづくり補助金を申請して開発に着手。この１０月にも１台１５０万円前後の市価で商品化できる見通しで、医療機関との取引に強い上場企業とすでに年間百台規模の契約にこぎつけている。松本は「大きな病院だとこうした廃液処理だけで年間１０００万円以上のコストがかかっている。この装置を使えばコスト削減につながるだけでなく、看護師さんの負担が大幅に軽減され、手術の精度向上にもつながる。ぜひとも普及させたい」と意気込む。

「関西ものづくり新撰」２年連続選定目指す

同社は近畿経済産業局が毎年選定している「関西ものづくり新撰」の今年の候補にこの「OPSUCTION」を申請中。昨年は「痰吸引ビンの自動消毒・洗浄装置」＝**写真右ページ左上**＝が選ばれており、２年連続の選定を目指している。昨年分は病院や介護施設などで使われている痰吸引器の吸引ビンにたまった汚物を自動で除菌・洗浄する装置で、こ

株式会社スミレ工作所

〒572-0076
寝屋川市仁和寺本町２－１－８
TEL　072-838-3656
URL　http://www.k-sumire.com/
創　　業：1985（昭和60）年
会社設立：1987年７月
代表取締役：松本照造
資 本 金：1000万円
売 上 高：約４億５０００万円（２０１５年９月期）
従業員数：25人
事業内容：医療機器・理化学機器・IT関連機器の製作、加工

れも看護師の負担軽減につながるだけでなく、院内感染の予防につながるとして注目を集めている。

また、２０１２年度の「おおさか地域創造ファンド」の対象になった手術室・病室用省電力装置「クリーンファンユニット」の開発では、照明と空調、エアーフィルターシステムの３機能を一体化させ、設備の小型化、軽量化をはかるとともに省エネにも貢献。数十カ所の病院に納入を果たしている。

屋外用ＡＥＤ収納スタンド

こうした病院向け商品と併行して、今後普及をはかっていこうとしているのが、屋外用ＡＥＤ収納スタンドだ。心筋梗塞などで倒れた人の心肺蘇生をはかるためのＡＥＤ（自動体外式除細動器）が屋外でいつでも使えるようソーラーパネルを設置。充電機能を備え、夜間照明や防犯カメラも同時に使えるようにしており、人が集まる屋外イベント会場や公園などでの設置を目指している。

ソーラーパネルからの充電で夜間照明も使えるAED収納スタンド

簡易トイレやベッド付きの機種も開発済みで、松本は「地震など大規模災害時に必ず大きな役割を果たす。東京オリンピックに向けても必要性を訴えていきたい」という。

勤務先の倒産機に５０代目前で独立

スミレをデザインしたロゴマーク

松本は高校を卒業後、大阪市内の金庫メーカーに就職。板金職人として約５年勤務した後、技術を見込まれて守口市内のスチール家具メーカーに転職した。さらに１０年ほどして近くの医療機器メーカーに移り、工場長を務めたが、１９８４年にその会社が倒産。それをきっかけに翌年、当時の同僚らと５人で「スミレ工作所」を立ち上げた。４８歳のときだった。

社名に採ったスミレは、花びらの後ろに「距（きょ）」と呼ばれる蜜の入った袋があり、ツボミのまま咲かない花でも種子をつくることができるといわれ、「小さいながらも力強く、洗練された技術力でたくましく生きのびる」という意味を込めた。松本は「創業メンバーのうち３人がたまたま４月生まれだったので、ありふれたサクラよりスミレにしよう一という程度の軽い命名でしたが、人に踏まれても花を咲かす野草で、忍耐強く生きのびようというううちにぴったりの名前かもしれません」と笑う。

２年後の８７年に法人化。当時、手術室で使用される器材が木製からステンレスに移行する過渡期だったこともあって着実に売り上げを伸ばし、新工場も建設。２００７年、現在の場所に本社・工場を集約するとともに、０９年には品質管理の国際基準であるＩＳＯ９００１，ＩＳＯ１４００１の認証を取得した。「創業当時はバブル経済まっ盛りのときだったが、業界はほとんどその恩恵は受けなかった。むしろそれがよかったのかも」と回想する。

中小企業に有望分野

医療機器産業はいま、ビジネスとして非常に有望な分野として注目を集めており、とくに関西圏は「国際先端医療特区」として規制緩和や税制優遇策が進められている。情報調査機関の調べでは医療機器産業の世界市場は約３０兆円におよび、毎年約５～８％の成長率を維持しているという。１台数億円の先端機器から１個数円の注射針まで対象は幅広く、多品種少量生産で大手が手を出さないニッチな分野が多いため、とくに中小企業に有望な分野とみられている。

早くからその市場に参入した同社の昨年９月期の売上高は約４億５０００万円。その多くは医師や研究者の高度な要求に対して、斬新なアイデアと高度なステンレス加工技術で応えたものだ。いわゆる“オーダーメード”の製品が中心で、量産化にはなかなか結び付かないものの利益率は高い。新技術の開発に向け、大学などとの提携も進めており、来年は関西医大と共同で、看護師の作業改善に向けた商品開発分野で産学連携を進める方針だ。

設立３０年、８０歳節目にバトンタッチ

萩原高明常務

松本は傘寿を迎える来年中にも、社長の座を創業メンバーの関係者でもある常務の萩原高明（４１）にバトンタッチすることを決めている。「来年は設立３０年という節目の年にあたりますし、そろそろ若い世代に将来の経営を託そうかと」という。これに対し萩原は「数は少なくても必要度の高い製品を生み出し続けるという社長の路線を踏襲しながら、技術を重視した独自路線で生き残っていきたい」と将来を見通す。

松本はいま、宇治市内の自宅から車で１時間程度かけて出社する毎日。健康づくりの秘けつはゴルフで、平均９０台のスコアで回る。「来年は（年齢と同じスコアで回る）エイジシュートを達成するのが夢」とか。日曜日に出社することも多く、「たいてい開発中の新商品のことを考えている」という。本当の健康のもとになっているのは、この“ものづくり精神”なのかもしれない。

工場内には大型機械が並ぶが静かで清潔だ